

ハンガリーにおける 日本語教育の現状

吉 海 直 人
カーロイ・オルショヤ

1、はじめに

カーロイ・オルショヤさんは、今年四月に東欧ハンガリーから来日した文科省奨学金研究留学生である（本学においては大学院研究生）。ブタペスト法門仏教大学で日本語専攻の学部と修士課程を修了し、これから私（吉海）のもとで百人一首競技かるたについての研究を行うことになっている。

ハンガリーは私にとって遠い国であった。これまでハンガリーの人に会ったことがなかったからである。だからハンガリーに仏教の大学があることも知らなかったし、そこで日本語日本文学の教育が熱心に行なわれていることも知らなかった（実際、彼女と話をしてみても、高い日本語能力を有していることに驚いた）。

そこで彼女に最初の課題として、ハンガリーにおける日本語教育事情をレポートにまとめてもらった。日本との文化の違いだけでなく、大学における授業のシステムなどにも関心があったからである。なにより彼女の日本語能力（書く力）を見極めてみたかった。すると予想以上に短時間でレポートが提出された。それを読んでみたところ、ほとんど修正を必要としないほどきちんとした日本語で書かれていて、また驚かされた。

書かれてある内容も申し分ないものだったので、書式や内容に多少手を加えて、吉海と連名で学会誌に掲載させていただくことにした次第である。ハンガリーにおける日本語教育の実態を知ることのできる貴重な報告として参考にしていただければ幸いである。

2、ハンガリーの日本語教育事情

日本とハンガリーの文化は非常に違う。この違いはハンガリー人にとって日本と日本語の魅力の一つであるかもしれない。ハンガリー人が日本語学習を始めるきっかけは複数ある。例えば、児童・生徒は漫画やアニメに興味を持ったり、実用目的から親に勧められて始めたりすることが多い。また社会人も、実用・ビジネス目的で日本語学習を始める者が少なくない¹⁾。

日本語学習自体に関心がなくとも、日本の伝統文化、例えば書道・生け花・茶道などに興味がある人は数多くいるし、日本の武道、例えば空手・合気道・剣道などもハンガリーでは人気がある。特に剣道は、ヨーロッパ大会やワールドカップでもハンガリーのチームが優秀な成績を収めている。

ハンガリーと大きく異なる日本の言語、そして同時に文化も学習するためには、体系的な教育が肝心である。現行のハンガリーにおける日本語教育を改善するために、まずは現状を把握しなければならない。

そこで本論文では、ハンガリーにおける日本語教育のこれまでの経緯を明らかにしたうえで、日本語教育の将来について考えていきたい。まずハンガリーにおける日本語教育の背景、次に教育機関と学習者数、そして日本語教材について整理する。そのうえで、ハンガリーにおける最近の日本語教育の動向や日本文化事情を紹介し、今後の日本語教育について考えたい。

3、日本語教育の背景

ハンガリーにおける日本への関心は、19世紀末から見られる。21世紀までのハンガリーにおける日本語教育史的展開を、大杉(2003)は以下のように分類する²⁾。

第一期：20世紀初頭から1980年代まで

日本語教育の開始から、ハンガリーが社会主義から資本主義に変わった体制転換前、日本語教育は戦争や社会主義など、外国語教育に不遇な社会環境において、健全な成長が阻まれ速やかに次の段階へと成長できなかった。

第二期：1980年代半ばから2000年まで

政治変動による社会の変化、教育体制の変革、そして閉鎖されていたハンガ

リーの開国、この三つの要因によって日本とハンガリーの国際協力が開始された。

第三期：2001年以降

1990年代に力を付けたハンガリーの日本語教育が導き出した新しい時代である。

以上を踏まえ、20世紀末から21世紀における日本語教育の背景を見ていく。以下、ハンガリーにおける日本語教育の始まりを支えた、青年海外協力隊、国際交流基金、ハンガリー日本語教師会の3団体の活動を概観する。

1) 青年海外協力隊 (JOCV) の活動

青年海外協力隊は1957年頃から構想され、1965年に発足した³⁾。ハンガリーにも調整員事務所を開設し、1992年に初めて2名の日本語教師が派遣された。1999年までの7年間で44名の日本語教師が派遣され、日本語教育を実施する機関数は大幅に伸び、日本語学習者数も増加した。また、青年海外協力隊の地方派遣によって、それまで首都・ブダペストに集中していた日本語教育が地方にも広まった⁴⁾。しかし、ハンガリーのEU加盟等によって、青年海外協力隊は「ハンガリーの民主化と市場経済化の支援」という目的が達成できたと判断し、2007年度をもって活動を終了した⁵⁾。

2) 国際交流基金の活動

国際交流基金は、国際文化交流を推進するための専門機関として1972年に設立され、2003年10月より独立行政法人国際交流基金（ジャパンファウンデーション）として活動している。国際交流基金の事業は（1）文化芸術交流（2）海外における日本語教育（3）日本研究・知的交流の3分野である。ハンガリーにおいては、国際交流基金ブダペスト日本文化センターが、日本・ハンガリーの政府間合意に基づいて、1991年に14番目の海外事務所として設立された。ブダペスト日本文化センターの活動範囲はハンガリーのみならず、中東欧の広い範囲にわたる。国際交流基金東京本部で企画する主催事業を始め、ブダペスト日本文化センター独自にも様々な活動を実施・支援し、文化・芸術関連の交流、日本研究、日本語教育普及に力を入れている⁶⁾。現在ブダペスト日本文化センターでは、

ハンガリーにおける日本語教育の現状

複数レベルの日本語コースや、日本文化を1つ取り上げて文化と日本語を学ぶテーマコースなどが開講されている。

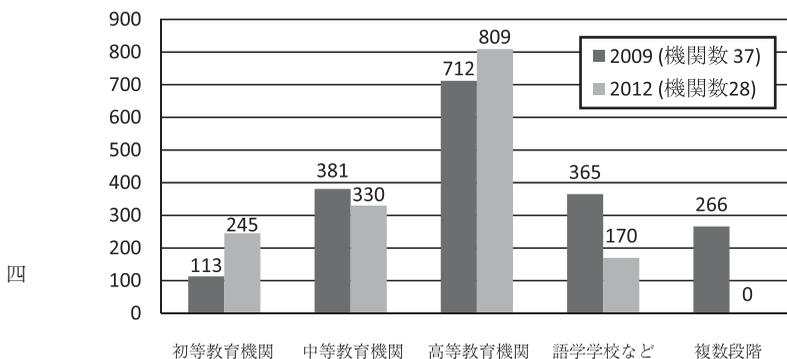
3) ハンガリー日本語教師会の活動

1980年代末から Törökbalint (トゥルクバーリント) という町の小学校で日本語が実験的に導入され始めた。これを機に日本語教育はますます盛んになったと言える⁷⁾が、国内で日本語教育を統括指導する機関はなく、他機関の日本語教師との交流もほとんどなかった。そこで、国際交流基金の協力・支援のもと、2001年2月9日に「ハンガリー日本語教師会」が発足した⁸⁾。現在では様々な日本語教材の発行、ハンガリー・日本語スピーチコンテストをはじめ、日本語や日本文化に関するイベント開催に力を入れている。また2009年から2011年まで「日本語キャンプ」という日本語学習のための合宿も企画・運営された。

4、教育機関と学習者数

現在のハンガリーの教育制度は初等教育が8年、中等教育が4~5年、高等教育が学士3年と修士2年の8-4(~5)-3(~5)制になっている⁹⁾。

日本語教育が行われている教育機関は2003年に27校であったが¹⁰⁾、2009年までの6年で37校にまで増加した¹¹⁾。

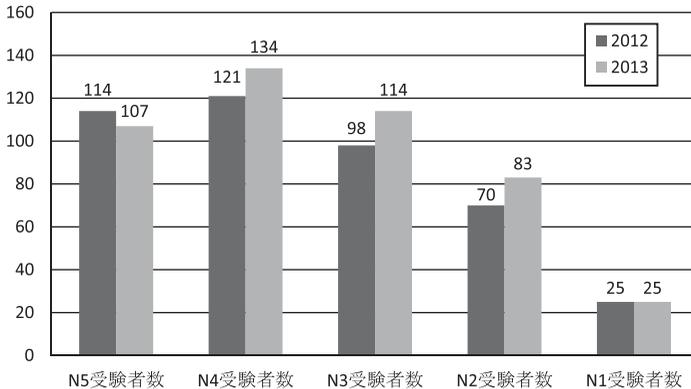


出典：国際交流基金日本語教育機関調査結果（2012の複数段階のデータ無し）

グラフ1 日本語学習者数

2013年2月時点で初等教育機関3校、中等教育機関11校、高等教育機関10校、一般教育機関6校で日本語教育が行われている。初等教育機関と中等教育機関では、第2外国語の選択必修科目または自由選択科目の位置づけである。高等教育機関では、2校が主専攻、1校が第1外国語、別の1校が第1外国語及び第3外国語として位置付けており、その他の教育機関では、日本語は選択科目となっている¹²⁾。国際交流基金の2012年度日本語教育機関調査¹³⁾によれば、日本語学習者がもっとも多いのは、高等教育機関である。

この調査結果から、2012年にハンガリー全土で1554名の日本語学習者がいたことがわかり、このほか、教育機関に所属せず独学で日本語を学ぶ人もいと考えられる。しかしながら、グラフ2をみると、これらの日本語学習者のうち、日本語能力試験上級レベルのN1受験者数は日本語学習者数全体の1.6%であった。初等教育から高等教育までの学校教育機関、そして一般教育機関でも日本語を勉強できる環境にあるが、上級レベルまで上達する学習者はまだ少ないと言える。



出典：JLPT 実施国・地域別応募者数・受験者数¹⁴⁾

グラフ2 日本語能力試験受験者数

5、日本語教材

五

ハンガリー語で出版された初めての日本語教材は『Rozsnyai gyors nyelvmesterei』シリーズの第15巻目の日本語教材であった¹⁵⁾。だが、この後1970年代まで日本語教材は出版されず、1971年にMajor Gyula氏が日本語教材を作っ

ハンガリーにおける日本語教育の現状

た¹⁶⁾。ハンガリーにおける日本語教材の作成はこの頃から始まったと言えるが、教材作成が活発になったのは1990年代である。以下の表1は、1990年から現在までに作成された日本語教材の一覧である。

表1 ハンガリーで作成・出版された日本語教材 (1)

	教材名	著者、出版社、出版年
1	Hangarii Jjjo (Magyar országismeret japán nyelven)	Székács Anna, Külkereskedelmi Főiskola, 1990
2	Japán nyelvkönyv kezdőknek	Hidasi Judit, Külkereskedelmi Főiskola, 1991
3	Yasashii Nihongo 1.	Itou Natsuko-Gergely Júlia, Decens, 1992
4	Magyar-japán külgazdasági kifejezés és szógyűjtemény	Hidasi Judit, Külkereskedelmi Főiskola, 1993
5	Yasashii Nihongo 2.	Itou Natsuko-Gergely Júlia, Decens, 1993
6	Szógyűjtemény (Daruma シリーズ)	Kiss Sándorné-Gergely Júlia, Tárogató, 1993
7	Japán jelszótár	Kós Péter, Külkereskedelmi Főiskola, 1994
8	Kanji gyűjtemény kezdőknek	Kondo Masanori-Sato Noriko- Székács Anna, Külkereskedelmi Főiskola, Kereskedelmi Főiskola, 1994
9	Yasashii Nihongo 3.	Itou Natsuko-Gergely Júlia, Decens, 1994
10	Japán-magyar kisszótár	Bányai-Kondo-Nagy-Cho, Külkereskedelmi F őiskola, 1995
11	Bevezetés a japán nyelvtanba	Hidasi Judit 訳, Külkereskedelmi Főiskola, 1995
12	Bevezetés a japán szókészletbe	Hidasi Judit 訳, Külkereskedelmi Főiskola, 1995
13	Szöveggyűjtemény iskolás gyerekek számára (Daruma シリーズ)	Varrók Ilona, Tárogató, 1995
14	Kanji és Kana	Lázár Lajos-Wolfgang Hadamitzky, Scholastica, 1997
15	Japán nyelvtani összefoglaló (Daruma シリーズ)	Kiss Sándorné Székely Ilona, Tárogató, 2001
16	初級日本語・ハンガリー語 語彙集	MJOT 開発教材, MJOT, 2006
17	初級ハンガリー語・日本語 語彙集	MJOT 開発教材, MJOT, 2006
18	日本語初級問題集	MJOT 開発教材, MJOT, 2009
19	日本語中級問題集	MJOT 開発教材, MJOT, 2009
20	平仮名・片仮名練習帳	MJOT 開発教材, MJOT, 2010
21	Dekiru 1.	Kiss Sándorné-Dr. Sato Noriko- Dr. Székács Anna, Nemzeti Tankönyvkiadó, 2011
22	基礎漢字練習帳 I	MJOT 開発教材, MJOT, 2012
23	基礎漢字練習帳 I	MJOT 開発教材, MJOT, 2012

表1 ハンガリーで作成・出版された日本語教材 (2)

	教材名	著者、出版社、出版年
24	Dekiru 2.	Kiss Sándorné-Dr. Sato Noriko- Dr. Székács Anna, Nemzeti Tankönyvkiadó, 2012
25	平仮名・片仮名学習カード	MJOT 開発教材、MJOT, 2013
26	基礎漢字練習帳Ⅲ	MJOT 開発教材、MJOT, 2013
27	ハンガリー語・日本語テーマ別語彙集	MJOT 開発教材、MJOT, 2014

2013年の調査によれば¹⁷⁾、初等教育機関では、表1の3、5と9にある『Yasashii Nihongo』、6、13、15のDARUMAシリーズなど、ハンガリーで開発された教材が使用されている。中等教育以上になると、日本で出版された教材を使用するケースが多い。よく使用されるのは、『みんなの日本語』である。高等教育では教師が自分で開発した教材を使う場合と、日本で出版されたものを使用する場合とがある。よく使用される教材は『みんなの日本語』、『げんき』、『JAPANESE FOR EVERYONE』、『J Bridge』、『テーマ別中級から学ぶ日本語』などである。また、一般教育機関でよく使用される教科書は『みんなの日本語』、『JAPANESE FOR EVERYONE』などである。

さらに、漢字練習の補助教材として、Shirokuma Bt.による日本語能力試験の全レベルの漢字の意味と熟語、書き順が書かれた「漢字カード」も発行されている。

6、ま と め

ハンガリーでは19世紀頃から日本への関心が見られ、日本の豊かな文化への興味や仕事での実用目的など、さまざまなきっかけで日本語が学ばれている。現在は初等教育から高等教育までの学校教育機関、語学学校などの一般教育機関、そのほか独習など様々な学習環境・形態が存在する。

そのほかに、教室外で日本語・日本文化を知る機会もたくさんある。例えば、日本語・ハンガリー語会話サークルで、ハンガリー在住の日本人と、あるいはハンガリー人日本語学習者同士が生で日本語を練習する機会があったり、ブダペストやその他多くの町でも頻繁に「日本の日」という日本文化に触れることのできるイベントが開催されたりしている。このように、日本語そして日本の文化は、

ハンガリーにおける日本語教育の現状

ハンガリー人にとってますます身近な存在になっていくと言える。

さらに、最近の日本語教育の特徴として、ハンガリーで初めて CEFR 準拠の日本語教材が作成されたことが挙げられる。それは 2011 年、2012 年に日本・ハンガリー協力フォーラムの支援を受け、国際交流基金とハンガリー日本語教師会によって作られた『できる 1』『できる 2』である。これは異文化間コミュニケーション能力の育成を重視し、課題遂行シラバスに基づいて作られた教科書で、対象は中等教育以上の学習者、『できる 1』は CEFR レベルで A1～A2、『できる 2』は B2 までとなっている¹⁸⁾。

『できる 1・2』ができたことで、ハンガリー人にとって、日本語と日本文化に関する学習はより手を伸ばしやすいものになった。だが、ハンガリーにおける日本語教育の発展のためには、さらに新しい教材を作り出す必要があると考える。例えば、上級レベルに達するための教材である。現在、日本語能力試験の N2 と N1 レベルの上級文法の説明がハンガリー語で書かれた教材はまだ存在していない。前述したように、日本語能力試験 N1 受験者数は極めて少ない。上級レベルの日本語について、ハンガリー語で詳しく解説された教材があれば、上級レベルまで達することができる学習者も増えるのではないか。また、使い方や例文まで詳しく記載されたハンガリー語・日本語辞典もまだ作られていない。もしそれが出版されれば、ハンガリーにおける日本語学習の大きな助けになるだろう。

『できる 1』と『できる 2』ができあがった他、ブダペスト日本文化センターの日本語コースでは、最近世界で注目されている「反転授業」が行われている。「反転授業」とは、講義ビデオなどのデジタル教材を使って授業の前に各自で知識の習得を済ませ、教室では従来講義に使われていた時間を使って学んだ知識の確認やディスカッション、問題解決学習など、知識を「使うことで学ぶ」活動を行うという授業形態である¹⁹⁾。ブダペスト日本文化センターでは『できる 1』の文型説明動画を作り使用しているほか、ハンガリーで『できる 1』を使う他機関の教師、学習者が自由に使えるようホームページにて公開している。この形態の授業がどのような成果を生み出すのか、今後あらためて検証したい。

八

付録、筆者の日本語学習歴

私は日本語学習を 17 歳（2005 年）の頃、独学で始めた。国際交流基金のブダ

ベスト事務所に誰でも無料で利用できる図書館があり、そこで初心者向け日本語教科書の平仮名・片仮名一覧表をコピーし、それを使って勉強し始めた。その後、プライベート授業を受けていたが、初級レベルにも至らないレベルで辞めてしまった。2008年にブダペスト法門仏教大学に進学し、2009年に日本語専攻に進学してから本格的に日本語を勉強し、学士課程と修士課程を卒業した。

大学における学習として、まず学士課程においては、最初の4学期に平仮名・片仮名・漢字・現代日本語・日本語会話を学んだ。語学の他、知識を深めるための日本文化と歴史の授業もあった。教師は4名、日本人2人とハンガリー人2人が担当されていた。1人の日本人の先生は主に平仮名・片仮名・初級漢字・文法や日本語会話を担当し、自分が作成した教材を使用して教え下さった。もう1人の日本人の先生は、主に日本語での日本歴史・文化や武道に関する授業を担当されていた。ハンガリー人先生の1人は日本の歴史、もう1人は日本語文法・漢字や仏教用語を担当されていた。

大学が仏教の大学だったので、教材になっている仏教経典は古典または漢文で書かれたものであった。そのため、最後の2学期で古典文法も必須科目になっていた。文法や会話の練習は、主に日本人の先生が担当している授業で行われ、文法や様々な表現の微妙な使い分けなどをハンガリー人の先生の授業で学習した。毎年選択可能科目として日本語能力試験の予備授業があり、試験に合格するよう受けていた。2年生の頃N4、三年生のころN2を受けて合格した。翻訳にも興味があり、日本民話抜粋の授業を受け、少人数グループで方言の日本民話を翻訳してみた。

大学院の修士課程では、文化の他に会話と上級日本語（日本語能力試験N1レベル）、漢字や漢文の授業があり、2年生の時に日本語能力試験N1に合格することができた。

次に大学外の日本語学習についても紹介したい。大学の授業以外に、実際に使われている日本語も勉強したかったため、2年生の頃から「日本語ハンガリー語会話サークル」に通い始めた。毎週金曜日に2時間ぐらい、決められたテーマを巡って日本人とハンガリー人の学生と社会人とで会話をした。会話サークルが終わってから、自由に話せる飲み会もあり、そこでたくさんの日本人留学生と仲良くなった。

ハンガリーにおける日本語教育の現状

日本語を勉強していて一番役に立ったのは、大阪大学ハンガリー語専攻の1人の学生との出会いであった。毎日のように2人で話し合い、ハンガリー語を日本語で説明したり、日本語をハンガリー語で説明してもらったりして、日本語知識を高めることができた。その他、「多読」で日本語の小説を読んだり、日常日本語が使われているアニメを繰り返してみたりして、様々な表現を身につけた。

会話サークル主催の合宿や、ハンガリー日本語教師会主催の日本語キャンプにも参加し、教室外でも日本語を積極的に学んだ。大学・大学院の5年間で日本にはわずか2週間しか滞在できなかった。たとえ日本で実際に使われている日本語を練習する機会がなくても、自分のいる場所で機会を見つけ、教室外でも日本語を練習することは大事である。また日本語は漢字もあり、書く言葉と話す言葉が大分違うため、授業での学習も不可欠である。これが私の日本語学習体験である。

学士課程日本語関連受講科目一覧	
第一学期	現代日本語 8. (講義)
現代日本語 1. (ゼミ)	現代日本語 8. (ゼミ)
現代日本語 3. (文字練習)	日本の文化 4. (文学)
現代日本語 1. (講義)	日本語会話 1.
日本の文化 1. (日本国)	日本語仏教専門用語
第二学期	歴史文 2.
現代日本語 2. (講義)	聴解練習 2.
現代日本語 2. (ゼミ)	日本民話抜粋 2.
現代日本語 4. (文字練習)	仏教と武道
日本の文化 2. (歴史)	第五学期
第三学期	現代日本語 9.
仏教の歴史と文化 6. (日本と韓国)	現代日本文読書 (仏教文)
現代日本語 5. (漢字)	現代日本語文読書
現代日本語 7. (講義)	日本語古典 1.
現代日本語 7. (ゼミ)	日本語会話 2.
日本の文化 3. (芸術)	第六学期
日本語能力試験 4 級予備科	現代日本語 10.
聴解練習	現代日本語文読書 2. (仏教文)
歴史文 1.	現代日本語文読書 4.
第四学期	日本語古典 2.
現代日本語 (漢字)	日本語会話 3.

修士課程日本語関連受講科目一覧	
第一学期	第三学期
日本語古典文読書 1.	日本語古典文読書 3.
現代日本語 1.	現代日本語 3.
現代日本語 5. (会話)	現代日本語 7. (会話)
日本語文献学専門セミナー (仏教の日本史における役割)	日本語文献学専門セミナー 3. (芸術)
第二学期	第四学期
日本語古典文読書 2.	日本語古典文読書 4.
現代日本語 2.	現代日本語 4.
現代日本語 6. (会話)	現代日本語 8. (会話)
日本語文献学専門セミナー (文学)	日本語文献学専門セミナー (演劇)

注

- 1) <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/hungary.html> 「日本語教育 国・地域別情報・2011年度、ハンガリー」最終アクセス 2015/03/09
- 2) 大杉 2003 : 178 頁
- 3) <http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/history/index.html> 「JICA ボランティアの歩み」最終アクセス 2015/03/04
- 4) 大杉 2003 : 185 頁
- 5) <http://www.hu.emb-japan.go.jp/jpn/071113.htm> 「JICA/JOCV 事業終了記念式典の開催」最終アクセス 2015/03/04
- 6) <http://www.jfbp.org.hu/jp/kokusaikoryukikin-ni-tsuite> 「国際交流基金について」最終アクセス 2015/03/08
- 7) 佐藤 2001 : 314 頁
- 8) セーカーチ、佐藤、2002: 8 頁
- 9) <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/hungary.html> 「日本語教育 国・地域別情報・2011年度、ハンガリー」最終アクセス 2015/03/09
- 10) Juhász, 2003: 13 頁
- 11) <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/hungary.html> 「日本語教育 国・地域別情報・2011年度、ハンガリー」最終アクセス 2015/03/09
- 12) <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/hungary.html> 「日本語教育 国・地域別情報・2013年度、ハンガリー」最終アクセス 2015/03/23

- 13) <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/hungary.html> 「2012年度日本語教育機関調査」
- 14) https://www.jlpt.jp/statistics/pdf/2013_2_3.pdf、「実施国・地域別応募者数・受験者数」最終アクセス 2015/03/09, https://www.jlpt.jp/statistics/pdf/2012_2_9.pdf、最終アクセス 2015/03/09
- 15) Rozsnyai Károly 1905 Japán. Gyakorlati japán-magyar-német beszélgetésekkel, hétéredeti japán írástáblával. Budapest.
- 16) Major Gyula 1971 Japán Nyelvtan és olvasókönyv, TIT, Budapest.
- 17) <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/hungary.html> 日本語教育国・地域別情報・2011年度、ハンガリー」最終アクセス 2015/03/23
- 18) 詳細は松浦他 2012 参考
- 19) 重田 2013 : 678 頁

参考文献

- Albeker András 「ロジュニヤイ『日本語速習』の著者と出典について」 http://elib.kkf.hu/okt_publ/szf_06_31.pdf、2015年3月24日アクセス
- 大杉千恵子 (2003) ハンガリーにおける日本語教育史概観、『国際開発研究フォーラム』177-200 頁
- Juhász Borbála (2003) A japán nyelv oktatásának helyzete hazánkban, *Iskolakultúra* 10号、13-20 頁
- 松浦依子・宮崎玲子・福島青史 (2012) 異文化間コミュニケーション能力のための教育とその教材化について —— ハンガリーの日本語教育教科書「できる」作成を例として ——、国際交流基金日本語教育紀要、第8号 87-101 頁
- Sato Noriko (2001) *A japán kultúra fogadtatása Magyarországon*、Budapesti Gazdasági Főiskola Tudományos Évkönyv、308-316 頁
- Sato Noriko 「A japán nyelvoktatás története és helyzete Magyarországon a nyelvkönyvek tükrében」 http://elib.kkf.hu/okt_publ/szf_06_31.pdf、2015年3月13日アクセス
- セーカーチ・アンナ、佐藤紀子 (2002) 海外日本語教育レポート、日本教育通信 44、8-10 頁
- 重田勝介 (2013) 反転授業、ITC による教育改革の進展、情報管理 vol. 54 no. 10、677-684 頁
- 「JICA ボランティアの」 <http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/history/index.html>、2015年3月4日アクセス
- 「JICA/JOCV 事業終了記念式典の開催」 <http://www.hu.emb-japan.go.jp/jpn/071113>

html、2015年3月4日アクセス

「国際交流基金について」<http://www.jfbp.org.hu/jp/kokusaikoryukikin-ni-tsuite>、2015年3月8日アクセス

「日本語教育国・地域別情報・2011年度、ハンガリー」最終アクセス <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/hungary.html> 2015年3月9日アクセス
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/hungary.html>

「実施国・地域別応募者数・受験者数」https://www.jlpt.jp/statistics/pdf/2012_2_9.pdf、
2015年3月9日アクセス

「実施国・地域別応募者数・受験者数」https://www.jlpt.jp/statistics/pdf/2013_2_3.pdf、
2015年3月9日アクセス

「MJOT könyvek」<http://www.mjot.hu/attachments/article/78/MJOTkonyvek.pdf>、
2015年3月14日アクセス